

夢湧き、夢に夢中 第4号

令和6年5月23日 文責：大谷

夢(おもい)は夢限(むげん)

体育大会が終わった後、静まりかえった校舎の一室で、顔や腕に少しばかりの火照りを感じながら物思いにふける。わたしは体育の教師である。これまで歩んできた20数年間を振り返ると、おおよそゴールデンウィーク前くらいから怒濤のような日々を過ごしてきたという記憶しかない。そして、体育大会をピークにボルテージが最高潮に達するや、終わった途端に「抜け殻」になっていた。そんなことを改めて懐かしみながら、今も昔も変わらない「体質」ということか。

あまり出しゃばつてはいけないと思いつつ、つい前に出てカメラのシャッターを切った。そして、その写真を、校長室で改めて見返している。「こんな真剣な表情で、何かに夢中に向き合えるなんて」と、心底うらやましくなった。と同時に、人が何かに夢中になるとは、そこに夢(おもい)がなければ夢中にはなれない、ということにも気づかされた。つまり、体育大会で見せた生徒らのあの表情やあの演技、そして、あの立ち居振る舞いには、すべて夢(おもい)が宿っていたのである。そして、その夢(おもい)こそが、人を動かし、自らを成長させるのだということ、生徒らの体育大会から学ばせていただいた。南阿蘇中生は、凄いきみたちは、凄いのである。



さて、この「夢湧き、夢に夢中」を書きながら、南中生のよいところにとっぷり浸りつつも、この「抜け殻」気味のわたしの心と体にも、何とか意気を吹き込まなければ、どうもうちは帰れそうにない。そこで、過去の経験を思い出ししてみる。どうやら以前の自分には「気合い」しかなかったようで、どんなに考えても、それ以外が浮かんでこない。

「やっぱり気合いしかないか」そう諦めかけていたとき、ふと全校応援の言葉が脳裏をよぎった。「支えられる側から誰かを支える側になりたい」

「わたしたちの頑張りを見せることで、南阿蘇村を元気にしていきます」

人は誰かのために力になりたいと考えたとき、とても大きな力を得ることができ、この夢(おもい)こそが南阿蘇中生の誇りなのだと思いつかされた。さらに、その夢(おもい)の中には同じ夢(おもい)を持った多くの仲間たちがいるのだから、南中生の夢(おもい)は、まさに夢限(無限)なのである。「抜け殻」だなんて言っていた自分が恥ずかしい。夢(おもい)を注入せねば。



■体育大会の開催にあたり、駐車場の案内をはじめ会場内の見回りにご協力をいただきましたPTA生活委員さんと役員有志の皆様、大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。